

(熊本県立御船高等)学校 平成27年度学校評価表

1 学校教育目標	
(1) 社会規範意識の醸成と基本的な生活習慣の確立	(5) 健康・安全教育の徹底と学習環境整備の徹底
(2) 確かな学力の育成	(6) 部活動の活性化と地域に根ざした学校教育の推進
(3) 個性を伸ばす進路指導とキャリア教育の充実	(7) 地域に信頼される特色ある学校づくり
(4) 心の教育の充実	

2 本年度の重点目標	
(1) 社会規範意識の醸成と豊かな情操・道徳心の育成 ア 生徒会活動の活性化による「あいさつ、服装、時間の管理、交通マナー」の向上等、主体的に自己改革に取り組む態度の育成に努める。 イ 他者への思いやりの心や人権を尊重する心を育むなど、心の教育の充実に努めるとともに、特に、学級における仲間づくりに配慮した教育活動を推進する。	
(2) 高い目標の進路実現を図る指導体制とキャリア教育の充実 ア 習熟度別指導や個別指導等による個に応じた指導の工夫・改善を進め、学習習慣の確立を図り、進路・適性に合った能力の向上と技術を身に付けさせる。 イ 進路研究、進路講演会の充実を図り、主体的に進路を選択、決定できる能力や勤労観・職業観を育むキャリア教育を推進する。 ウ 3年間を見据え進路指導体制の確立に努める。特に、二者面談、三者面談を充実させるなど、年間指導計画のもと継続的な進路指導を推進する。	
(3) 全人教育としての部活動の振興	

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	特色ある学校づくり	各科・コースの指導の充実	特進、普通クラス、芸術コース、電子機械科の特色と専門性を活かした指導 定員を上回る受検生の確保	○専門性を活かした進路実績の充実 ○資格検定取得率向上 ○各種大会・コンクールの上位入賞	B	各科・コースの特色を活かした教育については、アンケート結果でも高い評価（9割程が好評価）が出ており、芸術コース・電子機械科が参加した各種大会・コンクールでも実績をあげる事ができた。普通科の進学、電子機械科の就職等、進路面でも一定の成果が見られた。部活動については、2学期に部活動の再編成や各部キャプテンの研修会を実施して活性化を図った。今後、部活動の精選、教員の指導時間の確保等が課題である。読書活動については、定期的な図書部便りの発行や朝読書を実施して推進に努めた。今後、更に内容を検討して充実を図っていく必要がある。
		部活動の充実	部活動加入率90%以上	○部活動を通じた社会性・人間性の育成 ○各種大会の上位入賞		
		読書活動の充実	朝読書の定着と読書の幅の広がり 広報活動の充実と図書館利用の促進	○全職員による読書指導 ○図書館便りの定期発行と購入図書 の充実 ○年間貸し出し数10冊/人以上		
	開かれた学校づくり	家庭・地域との連携	地域の行事への積極的参加 保護者会・三者面談の充実	○清掃活動や教育フォーラムへの参加 ○育友会総会・報告会参加率90%以上	B	育友会総会の出席率は75.6%（昨年度81.3%）で、今後、保護者会を含めて内容・日程の充実、連絡の周知等、検討して行かねばならない。地域の行事には積極的に参加し、連携を図ることができた。学校HPについては、内容の充実、頻繁な更新等によりアクセス数も大幅に増加（1日平均200件以上）した。学校説明会、学校紹介リーフレット作成等、新たな取組も行った。
学校の公開と情報の発信		学校HPの充実・安心メールの有効活用 公開授業・研究授業の推進	○HPで学校行事や生徒の様子を随時更新 ○年間2回の公開授業の実施と保護者・地域への周知			

学校経営	共有と協働	校務の効率化と情報の共有	校務の効率的な推進体制の確立 生徒と向き合う時間の確保	<ul style="list-style-type: none"> ○運営委員会、職員会議等の効率的な運営 ○報告・連絡・相談の充実による各分掌の連携強化 ○校内LANの活用による情報、教材の共有と有効活用 	C	文書負担の軽減を図るとともに、朝会や会議の時間短縮に努めた。今後、学校行事の精選や組織の見直しを行い、より効率的・効果的な校務運営に努め、生徒と向き合う時間を確保していく必要がある。ICTの活用、教材の共有等も環境整備を含めて今後、更に推進していきたい。
学力向上	授業力向上	わかる授業の実践	生徒の理解度、満足度80%以上 学習指導要領に則した授業の改善	<ul style="list-style-type: none"> ○年2回の授業研究会の実施と授業改善の取組 ○ICT機器の有効活用と教材の精選 	B	研究授業は年間2回実施し、授業改善に積極的に取り組んでいる。「学力向上、分かりやすい授業づくりの取組がなされているか」とのアンケート調査結果では、生徒が70%、保護者が78%の割合で「そう思う」と回答。一方、授業意識調査では、「意欲的に取り組んでいる」という生徒の割合は47%に留まり、満足度は高くないと思われる。生徒が望む分かりやすい授業内容、授業改善に更に取り組んでいく必要がある。
	基礎学力の向上	学習到達度に応じた適切な指導 個に応じた指導の充実	学習内容の定着の取組 欠点保持者数の減少	<ul style="list-style-type: none"> ○習熟度別指導や各科・コースにおける指導の充実 ○個別指導の充実と定期考査前学習会の実施 	B	数学では習熟度別指導を行い、到達度に応じた授業に努めている。個別指導や考査前学習会を実施するとともに、基礎学力向上のための「学びの森」も年間を通じて継続的に取り組ませ、学力の下支えができた。一方で欠点保持者はあまり減少させることができず、より丁寧で効果的な指導を検討しなければならない。
	自学力の育成	主体的に学習に取り組む態度の育成	学習の動機付けと課題の工夫 家庭学習習慣の確立	○在宅時間調査の実施と調査結果をふまえた指導	C	考査前の在宅時間調査では1・2年生ではやや伸びているが、まだ十分とは言えない。主体的に学習に取り組む態度の育成や在宅学習習慣の定着に向けて、結果を分析し、学習の意識付け、教材の提供等、今後も継続して取り組んでいきたい。
キャリア教育(進路指導)	キャリア教育の充実	進路意識の向上 指導力の向上	早期の進路目標の確立 望ましい職業観、勤労観の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○総合的な学習の時間、進路面談の充実 ○インターシップ、大学訪問、企業見学等の実施 	A	体験や見学と、その前後の指導をとおして、将来の進路を具体的に考える機会を作ることができた。安易な進路選択とならないよう、今後とも進路情報の提供や面談の充実に力を入れていきたい。
	進学指導の充実	高い目標の設定と実現に向けた取組の充実	大学進学率25% 国公立大学合格者10名	<ul style="list-style-type: none"> ○個別指導の充実 ○進路情報の提供 ○進路検討会の実施と指導の改善 	B	大学進学者は全体の約20%、うち国公立大に5名が合格し、効果的な個別指導により、大学進学希望者のほぼ全員の進路目標を達成することができた。推薦・A0入試合格だけでなく、センター試験を利用した一般入試合格者の増加が今後の進学率アップのカギとなる。
	就職指導の充実	就職意欲の高揚 希望・適性にあった進路選択	就職希望者内定率100% 積極的な資格・検定へのチャレンジ	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリアサポーターや各機関との連携 ○生徒の希望の把握と求人開拓 ○進路情報の提供 	A	地元企業からの求人も増加し、内定率は全体で95.7%、電子機械科では14年連続で100%を達成できた。進路目標を見据えて積極的に資格試験に挑戦する姿勢も見られた。普通科の一部の生徒で就職活動に消極的な面も見られたため、早期からの進路目標の確立に力を入れていきたい。

生徒指導	規範意識の醸成	ルールやマナーを積極的に守ろうとする態度の育成	基本的な生活習慣の確立 情報モラル教育の充実 遅刻者、服装頭髪違反者、特別指導者数の減少	○全職員による積極的な生徒指導 ○問題行動等に対する機を逸さない指導	C	毎月の頭髪服装指導や2学期から実施した全職員での登校指導は効果が見られた。しかし、日頃の授業態度や服装、生活行動面において規範意識の低い生徒も見られる。また、問題行動等への対応に追われ、未然防止のための指導が十分にできなかった点もあり、今後、全職員で更に積極的な生徒指導に取り組んでいく必要がある。
	交通安全意識の高揚	交通違反、事故防止 交通マナーの向上	自転車通学生徒の二重ロック100% 交通違反、事故件数の減少 交通ルール・マナーに関する指導の徹底	○全職員による登校指導の実施 ○交通安全集会、交通講話、実技講習会の実施 ○違反生徒への徹底した改善指導	A	生徒・保護者へのアンケート結果（生徒86%、保護者89%が好評価）からも、交通安全指導は効果的に実施できている。交通講話や講習会・SD申請の指導や緊急集会をとおして、交通法規の確認や規律意識の向上に努めた結果、交通違反は減少するなど効果が見られた。今後、1年生の二重ロック実施率や、バイク通学生以外の免許取得者のバイク点検・確認等を改善していきたい。
	自主性・社会性の育成	生徒会活動の充実	生徒会が主体となった学校行事の運営 各種委員会活動の充実	○体育祭、文化祭等の企画運営の充実 ○学校紹介ビデオ作成及び学校説明会運営 ○挨拶運動やボランティア活動の取組	C	生徒による「月目標」の設定、リーダー研修、先進校の視察等を行い、生徒の自主性の育成に努めたが、アンケートによると体育祭や文化祭等の学校行事には「積極的に参加している」と86%の生徒が回答したが、「生徒会活動が活発である」と回答した生徒は54%にとどまった。生徒会と各委員会が連携し、生徒主体でより充実した活動がなされるようにしたい。
人権教育の推進	生徒、職員の人権意識の向上	推進体制の機能強化と研修の充実	人権教育推進委員会による指導体制の充実	○校内・外の研修への全職員の参加 ○人権週間の取組の充実	A	7月の「御船町人権教育研究会」には例年より多くの職員が参加し、学習を深めた。人権週間の充実のため、人権教育朝読書を例年より多く実施するなど、取組に力を入れた。
	命を大切に する心を育む指導	自他の生命を尊重する心の育成	自他の生命を大切にし、互いに理解し合う集団づくり	○内外の講師による人権教育講話の実施 ○人権尊重に根ざした授業づくり	B	12月には「人権教育講演会」を実施し、事前のLHRと合わせて身近な教材である「来民開拓団」について深く学んだ。実施後のアンケートからも、命の大切さ、差別の不条理さを考える良い機会となった。
いじめの防止	いじめの未然防止	他人を思いやり、いじめを許さない態度の育成	人権意識の向上 いじめの根絶	○生徒通信「あゆみ」の定期的発行による啓発 ○生徒会によるいじめ防止宣言	B	生徒会による「いじめ防止宣言」はできなかったが、クラスマッチ等の学校行事の際に、仲間との協力の大きさを訴えた。「あゆみ」は定期的に発行できた。
	指導体制の確立	いじめ防止対策委員会を核とした組織的取組	早期の発見と早期的確な対応	○いじめアンケートの実施と全職員での情報の共有 ○教職員の共通理解、保護者・関係機関との連携	B	スクールカウンセラーも交えたいじめ防止対策会議を3回開催し、アンケートの実施方法等の改善、事例をもとに対処法の検討等も行った。アンケートのみに頼ることなく、普段の観察や職員間での情報共有等、未然防止に更に力を入れていきたい。
特別支援教育	特別に支援を必要とする生徒への的確な対応	実態把握と情報の共有 関係機関との連携	生徒、保護者、SCとの面談の充実 生徒の状況に応じた的確な対応	○生徒理解のための職員研修の実施、面談の実施 ○「フェイスシート」「個別の教育支援計画」の作成	B	4月、7月、10月に生徒理解の職員研修を実施し、支援が必要な生徒、課題を抱えた生徒について情報の共有を行った。「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」等の作成段階に進めたが、内容の更新や作成後の積極的な活用で不十分な点で課題が残る。

環境保健	健康管理・健康教育の充実	自己健康管理意識の高揚	健康への意識を高め、自己管理能力を育成する	○保健だよりによる健康意識の向上 ○専門家による講演会や講習会の実施	A	保健だよりは内容も充実しており、生徒の健康意識の向上につながった。性教育や薬物問題などの講演会では自分の問題として捉える生徒も多く、効果は高かった。
	環境整備	清潔、整理整頓安全管理	掃除の徹底 施設・設備に起因する事故0件	○全職員による掃除指導の徹底 ○美化コンクールの実施 ○隔月毎の安全点検の実施と不良箇所の改善	B	安全点検は定期的実施され、多くの不良箇所を改善することができた。校内美化に関しては保護者アンケートでは高い評価（93%が好評価）を得ているが、生徒・職員では7割程度にとどまっている。主に普段の掃除で全生徒・職員が協力して清掃活動に力を入れていきたい。

4 学校関係者評価

学校関係者6人の方に、15項目について4段階での評価をお願いしたところ、全体的に肯定的な評価が多かった。「学校の教育目標・重点目標が明確に示されている」(3.83)、「校舎内外の清掃」(3.67)と高い評価が得られた。「授業力向上・学力向上の取組」、「生徒の進路実現のための努力」、「学校の環境整備」、「生徒の健康・安全面の配慮」、「学校行事の充実」は何れも(3.50)と概ね良好な評価をいただいた。反面、「生徒の思いやり・優しい心」、「交通ルールの遵守」、「地域行事への参加」は何れも(3.17)、「基本的生活習慣の確立」、「部活動の充実」は(3.00)、「明るい挨拶」は(2.83)と、若干評価が低かった。これらの評価が低い項目は、本校の自己評価と重なる部分も多く、課題として真摯に受け止め、改善に取り組んでいかねばならない。

その他の意見として出されたものでは、「就職内定100%は嬉しい」、「体育祭への多くの地域の方の参加は良かった」等の評価や、「保護者と学校の連携、育友会の強化、保護者の学び」、「学校行事の精選も大切だが、生徒の自主性を育む行事は必要」、「生徒が目的意識を持って取り組む授業」、「センター試験受験者を増やして進学実績の更なる向上」、「地元で活躍できる人材育成」等についての要望があった。これらの御意見は、歴史と伝統のある本校の更なる飛躍と発展を望んでおられる声と受け止め、喫緊の課題である校務改革、授業改善と関連づけて取り組んでいきたい。

5 総合評価

学校自己評価が示すように、評価がB以上の項目は全体の79%と、概ね年度当初の目標が達成できた。多様な課程を有する本校の特色は生かしており、生徒の主体的な取組にもつながっている。今後、部活動の活性化、朝読書の取組の充実等と併せて、更なる魅力ある学校づくりに努めていきたい。本年度は、学校HPの改善、広報活動、積極的な地域との関わり等の取組を充実させることで、生徒募集についても一定の成果をあげることができた。今後も更にこれらの活動に力を入れていきたい。

挨拶、服装、交通マナー等、規範意識の醸成の面や、基礎学力向上、学習への意欲の面では、まだまだ課題も多い。これらの課題の解決に向けて、指導体制の確立、個々の生徒への対応の充実、授業改善の推進等に更に力を入れていかねばならない。また、進学指導、就職指導の面でも実績をあげることができたが、目標とした数値を十分に上回ったとは言えず、更なる努力が必要である。生徒や保護者の一番の関心事でもある。早期からの進路目標の確立と、その実現のための充実した取組ができるよう、指導体制の確立と教員のスキルアップにも努めていきたい。

変化の激しい時代において、多様な特色を持つ本校の舵取りは難しい側面もあるが、その特色を最大の長所(武器)と捉え改善すべき所は確実に取組に繋げ、これまでの伝統を継承・発展させ、地域に信頼され愛される学校づくりを目指したい。

6 次年度への課題・改善方策

学校の組織改革・校務の効率化を更に推進し、生徒との面談、部活動指導、個別指導等、教員が生徒とより密に接することができるようにして、規範意識の醸成、学習意欲の向上、進路目標の達成へと繋げていきたい。

ICT機器の充実等学習環境の整備の推進とその有効活用、生徒アンケート・授業評価等の結果の分析等により、「わかる授業・楽しい授業」の実現に向けた授業改革にも更に力を入れていきたい。

育友会との連携を密にし、保護者の学校への関心・理解を深め、学校の魅力を広く地域に発信していきたい。本年度の生徒募集に向けた様々な取組は、一定の成果をあげることができたが、次年度はこれらの取組を更に充実させ、今年以上の成果をあげる。